

大植民地の
理想

日伯新聞

Caixa, 375 S. Paulo
Telephone 2-3926
リベルダーパウロ市
發行所 日伯社
本紙定價一元金合銅
外國郵稅一年共金合銅
面告料一面及八面言レース増

家族居なければ独立して經營は

出来ない、即ち一千家族が植民

地經營の單位である、その點に

おいて從來の海興の理想も現在

のプラ拓の理想も中途半端であ

つた、最近この點に目ざめてる

もこれには手を焼いてる、其所

り書いたつもりだ、意地悪く記

者氣質を出して經營内容をほぢ

くるなら、いくらもアラはある

うが、それは今プラ拓と云ふよ

ーレヂストロの產業素描は一通

り書いたつもりだ、意地悪く記

者氣質を出して經營内容をほぢ

くるなら、いくらもアラはある

うが、それは今プラ拓と云ふよ

既成政黨聯合劇

策源地は政友會

實現恐らくは不可能

【東京二十五日發】非常時セシヨ

局

内閣

植それで能事おわれりと思つて

が、政府の出店のプラ拓では何

米穀専賣や肥料國營

掛聲勇ましい農村對策

後藤農相大車輪の活躍

〔東京十七日〕 農村問題ならびに米價對策につき荒木陸相は近づき農業と肥料、國營の斷行、自作農保護策、勵行の全面的普及および徹底的農村負債の非常立法による根本的政策の断行、これらに要する諸資金の低利も、首相主催の下に諸務、農林、大村問題に対する國策樹立のためが、兩相の意見の結びの結果さらなる農村問題に對する國策樹立のため

本對策を攻究する必要があることを認めてゐるようである。従つて農政の關係は秋貯蔵案を來年豫算の關係事項として一般豫算問題と同様決下せたい意向であるが、目下のところ農村根本對策の問題は五省會議で生れる國內と共におそら

關係と切り離して討議を進めることとなるとみてゐる。しかし恒久的根本政策として閣内での議論となるべき項目は農村対策の徹底を期すため、米穀を聚めてゐる五省會議も回を重ねることすでに四回、會議本來の建前たる國防、外交、財政調査に關する各省間の自由討議も略々言ひ盡し、十六日の會議では

○櫻咲く母國への訪問團○

母國訪問團々長
合田久市
H. GOHDA

近時東京電報は頻りに米國の艦隊計畫着手、艦隊の太平洋集中繼續に省みて、日本側の意向がますます對英米均等比率の要求に傾いてゐることを報じて、注意を惹いてゐたところ最近米國新聞紙上に表れた反響は次の通りである

略歴問題の場合と同様、日本は兩國が莫大な危険な論争ばかりややろとしてゐるのは悲しむべきことだ。日本はしばらく米國艦隊のことを云々しないでゐたが、最近スタンドレイ提督が米國艦隊の無期限船で太平洋に留まるべきことを聲明して以来、日本は氣を採り出したもののようで、現に日本海軍當局は満洲に關する日支紛争が落着したにかゝわらず依然米國艦隊が太平洋に集中しようとして

求すべし」といきりたつてゐる態度に出たかはまだ不明であるが、今後日米双方で互ひに抑制するところがなければ最も危険な国際紛議をおこすことは明かで、兩國の政府當局はこの際極めて慎重真剣な態度で考慮する必要がある
ワントン・ホスト曰く……
満洲に地盤を堅めロシヤを威圧して東支鐵道を手放させようとしてる日本は、今や英米に對して海軍力の均等を要求

ね、ひるがへつて米國の比率群島に對する地位、世界共に對する支貿易に對する地位、世界關係は遠からず吾等米國をして支那の少くも部分的戸開放政策を支持するか、は極東における通商上の利くか、その何れかを選ばざを得なくさせるだろ、要るにどの程度まで日本はその野心を逞しく又米國がどの程度までその利益をギセイにいるか、今後の問題である。

太平洋洋上
日本の海軍政策に對し
米國は警戒せよ
アメリカ新聞紙はいふ
波荒し!!

して、満洲事件の落着したのは事實であるが、それは日本の明白な條約違反によつたもので、國艦隊の行動を理解するためにはこの間の事情をある程度まで考慮にいれる必要がある、勿論艦隊問題は海軍擴張問題の一部で、同問題は最近の米國増艦計畫によつて刺戟され、日本は現行條

た通り、この均等の興へらない限り新しい海軍々綱にじない意向である、米國艦の太平洋集中に對する非難ともも対するべき海軍議に對し日本の主張を軍事らしめようとする前觸れにならぬ、今日の日本はも早九三一年の日本ではない、國たるものこの新事態に顧

ける意見の對立はなほ解けず、或る一點に對する點を歸してしめんとすれば却つて閨内對立を激化させし内閣の運命にも重大影響を及ぼす虞れあり、政府としてもこの點を慎重考慮の上二十日の第5次會議を以て一應打切りとする

【大連發】フランス經濟代表ド
リヴィエエ氏が佛國側の對滿投資
問題につき山崎滿鐵理事に表明
した意見は次の通りである
今度滿洲國に對する佛國産業
團體の態度を表明しうるを欣

快とする、佛政府としてはリ
ツトン報告書に賛意を
することは不可能で
拒否あつたが佛産業團體
は日佛産業協力の可能性を研
究せしむる目的を以て自分を
満洲國へ派遣した程であるか

調印が行はれる段取となる
獨身の青年二、三名入用
手當は面談の上
フレガジヤ・ド・オーリ
遠藤恵吉

日本牽制策

〔巴里三十日發〕蘇聯外務人
員長リトヴァノフ氏は渡米の
各種の條約を結びフランスは
は友好關係を復活しまた又
メリカの承認を得やうとして
ゐる

てアトとめ居間は十一月に有り假にこれを
するが、高橋蔵相が國防費を根柢と
する新規要求をいかに査定する
のかは未知數とされてゐる。但し
政府首腦部や側近者は右の方針
を大體次の通り明かにするもの
と觀測してゐる。

標を置き新規公債の利拂ひは
九年度の自然増收をあてる
一、國防費の新規要求は満洲事
變費と時局匡救費の減少した
一部分をあてる
一、一部の軍事費要求は昭和十年
度に考慮するが現下の經濟情
勢からみて適當とみとめる
と藏相の意見は以上通りで軍
部要求の國防費は相當考慮する
が一部の削減もよきなくされ
議紛糾は免れぬ模様である

然るにその後日滿兩當局は、ラヌスに優先権を賦與する。滿洲國の門戸開放機會均等の根本原則に反するものとの由で右申出を拒絶し、結局該求を撤回するに至つた。斯くて残るは外交問題だけなり坂本パリ駐在領事の報告によれば、中日ソ連の交渉開始したがその際突如滿國投資に關する優先権の承認を要求したので交渉は一時停頓状態に陥つた。

藏相の大決断

より赤字
意見の一致を見具體案を得た
は過般來満鐵と交渉の結果大
經濟發展協會代表ドリヴィエ
する投資に關聯しフランス海
は

五省又は六省會議を開催の豫定
に依り、從つて問題は
で明日開議で齊藤首相から右説
に照しても満洲に關し經濟
調の成立しない理由は毫も
明了解を求める筈
い、云々

到達せしめず、たゞ回に亘る會議の席上各省にて述べられた種々の問題について、憚りなき意見を收穫とし、閉ぢ、來年度豫算における藤農相、中島、山本、高橋又大演習後農村問題を中心として開いた。第三國の協力の必要とする事實はこれと正反対で、自らの審議するため、來月早々に開く。満洲國の開發と信頼をもつて、第三國との開発問題に對し深甚なると書いてある。

親切

Trade X Mark

日本商品の販路は益々擴張されます

年末の御仕入は是非弊店から

ラヂオ……GK

日本食料品各種、小間物化粧品
内外陶器金物類、日本賣藥雜貨
玩具文房具一切、野菜種子物類
流行歌本子供繪本、イロハかるた類
澤山入荷致しました

藤澤醤油サンパウロ特約店

日本醤油も御座います

品が確實で値段がこれ迄にない
安いので素晴らしい評判です
賣切れぬ内に御注文を願ひます

Caixa, 987 - S. Paulo

御注文御照會の御手紙は

店商井國

番七八九 函郵 = 番五五二五・二 話電

第一



「リトラル」の珈琲

レヂストロ 半澤虎雄

『優良品を得るまで』

記してもいいだら

たゞ残る問題は海興が今後真

面目に之を指導奨励し一般植

業者間に普及させる熱意を有

するが、第一は完全に達成した

中僕は休職といふことになつ

たのだ

弱り目に何とやら、その後僕

は生れて初めての病氣もし經濟

上からも凡ゆる憂き目に遇はさ

れた、愚妻昨年の病氣も僕が入

植以来何もかも忘れ躍氣となつ

て研究にコリカタつて努めて

たのを助けるため永年の不自由

に堪え無理し盡したに因る、イ

グアベ植民地が生れて二十年、

会社の直營事業中業績の舉つて

るのは珈琲園だけだが、之を仕

上げた者に酬ひられたところは

斯の通りだ

どうもつい愚痴つぼくなつて

赤面の至りだが……此採算上の

研究に就いてはその後の研究によ

り、安く仕上げて高く賣ること

が今年の二月立派に立證された

から喜んで呉れ、それは斯うで

ある一體デスボルバードの標準價

は四級品より十キロに付約三

ミル内外高い、今年二月現場

評價させたところ、當日の四

級品は十四ミル五百、當レチ

近東など所謂新市場（六億六千

百四十万ヤードから十三億九千二

百四十七万ヤード

と異常なる躍進を示してゐる、

出綿市の推移を見ると、

年度出数量においては九三二

万九千七百ヤード、前年に比

し三一%増）によるものであつ

たが、本紬布によつて連年激減

してゐる、一方支那市場

は主力的排日貨と

してゐるが、東京某所調

定するものとして今や注視の焦

り、安く仕上げて高く賣ること

が今年の二月立派に立證された

から喜んで呉れ、それは斯うで

ある

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

促進策協議
同仁會評議員會開催
憲法議會
十一月十五日開會

人財輩のためにも交際多大なる
へしと期待されてゐる。
一行は来年一月廿二日嚴冬の
候日本着、僅々三週間に南阿
路の便船モニビデオで南阿
經由歸國するが見學は多く分東
京、京都、大阪の三大都市に限
られるものと思はれる、旅行
費用は團長の見込では全部で
計百五六十コントの見積も
なほソーザ・カンボス博士は各
主要大學病院見學の外ブラジル
特有の難病等に關する講演をも
試みる豫定でその他當國醫學を
紹介する文献寫真等多數持參す
べく自下準備中である、當地總
領事館も折角韓旋中であるが福
川囉託を行ふ世話人として派遣
建築場希望者も入場料ニミルを要する
講員会へ送るべく選手以外の入
アで催される全聖州少年陸上競技會に對する邦人子弟の氣分を鼓舞させるものと注視される。出場資格は十二歳以上十六才まで年齢により之を三組に分ち、種目は男兒五十、百、二百、四百、八百、千五百、走中、走高、棒高、三段跳、槍、圓盤、砲丸の外一百、八百繩走、女兒は五十、八十、一百、二百、三百、走中、走高、三段、圓盤及び二百、四百繩走、一人三種目以内で申込は住所、年齢、學校又は青年會名と希望出場種目とを記入し貯金ミルを添え本月十五日迄に申込は住所、年齢、學校又は青年會名と希望出場種目とを記入し貯金ミルを添え本月十五日迄に

同胞各位 在ブラジル日本人同仁會

一、主 記 本會「バウルー」地方醫局主任
一、助手兼地方巡回員 湯谷定之助
一、檢便料 一人に付 貳ミルレース
一、藥代 一人に付 第二回分 無料
トドーレ齋藤等
第一回分 參ミルレース
(租し貳ミルレース補助)

昭和八年十月二十五日 告可致候

**Ver
e
Crêr**

ホラス

來たり見よ

瘠せるを知らぬ天然の沃土 テレス・バラス

トレス・バラス

の土地

- ◆ 本年度分譲地は殊に土地平坦、岩石なく、バルミット密林……◆
- ◆ 海拔六百米内外、氣候良好、風土病無く、霜害の憂無し……◆
- ◆ 珍珠、米作、カンナ、ミイリョ、フェジョン、養豚に好適……◆
- ◆ 支線道路は各ロツテに通じて入植に便利……◆
- ◆ 土地代は無利子五ヶ年賦、一アルケール五百五十銘内外……◆

御観察歡迎▼…………一日早ければ一日の利あり

案内書無代進呈

パラナ移住地 分譲

仁介井白人配支地住移スラバストレ
Fazenda Tres Barras
Caixa Postal, T. B. - - Estação Villa Jatahy
L. São Paulo-Paraná

合組植拓ルジラブ 限有
在實
Caixa Postal, 2975 - S. Paulo

例へども一新機軸を出して在留同胞の文化的向上のため寄りしやつとする互生會では、此たびはフジル生れの娘でお嫁入りもだらまうとの如きへ第三世を産まうといふので育兒法の一章も心得てない。有様では民族發展のため誠に心細い次第だつて來年一月十九日から三月三十日まで二ヶ月の婦人講習會を開催することになつた。

日伯文化の交換
醫大見學團今月出發

此報聖市醫大學生の日本見學旅
業丸野政義氏次男勳君(三)は市
立工藝學校建築科で六年間孜々
として勉學中のところ此春螢等
了次功成り優等の成績で卒業。爾
來實社會に飛び込み父親の仕事
を助けてゐるが秀れた技術をもつた
上眞面目で外人間に大評判
尙ほ日本樂部運動場で五生會主催
競技會 五生會主催
日本樂部運動場で五生會主催
意見を參照して出来るだけ完善
の策を練るものであると
専門的立場から援助すること
に決したが、同仁會では豫算編
成に際しても從來の如く少數の
役員だけで決めず此等専門家の
意見を参考して出来るだけ完善

<p>シチオ賣却 處女地賣却 又貸與</p>	<p>サツペーの最良地帶、水質市 気候快適、カンボンビーチ、ナス良 好、マツト及び住宅付、支拂 便宜計る、御照會は Jose Pompeu de Camargo Rua Silva Telles, 46 Tel. 30032 Campinas</p>	<p>記の所賣却又は貸度し、支 便所の御希望度て 御建築せしむ、御照會は a do Gazometro, 49 S. Paulo</p>
<p>謹 告</p>	<p>新 版 サバウロ州大地圖 定價送共三三三四レース 聖市博友社 カインヤ 三三二八</p>	<p>日葡商字入明細五色刷 田六全判U2×76 一七五七 郵函 サンバウロ</p>
<p>ドトール主任となり奥地同胞保健の爲め十二脂腸虫病撲滅 今般左記の規定に據り本會「バウル」地方醫局主任齊藤</p>	<p>ロカベ市近郊の土地區割賣出 又は貸與御照會は S. Bento, 36, 4^o. and. sala 14</p>	<p>十一 十一 十一</p>

總羽山西古高根山權寬末藏一次
代植民者一同植民者一同
植民者一同植民者一同
カゴベンザカゴベンザカ
セセイラセセイラ

临时政府が過般矣。如外國人の呼寄を停止したとの報一度傳はるや。一般在留外國人等に在留同胞間に多くの衝動を興へ在官憲は素より移民誘入業者、呼寄出願取扱人等は各々立場から夫れんゝ之が解除方につき關係方面運動中のと

講習會
寄取扱人等の調査によれば農
伯後は農業地帯に行かず都市
に留まる者が多くなつたに鑑
み斯くては内國勞働者保護法
の趣旨にもとるとして遂に禁止
に至つたものでその後海興呼
願手續するを要すると

せるものを作る方針に改めた、
来る十一二両日はその同人會
評議員會第一回の會合聖市に催
されるが該會議のうち最も重要
視されてるのは日本病院建設の
許されず寄せられた親戚に限り
且つその期間は十二月迄、そ
の他手續上に多少改められた
ところありと、尙右は本年限
りで來年のことは判らぬ由に
つき希望者はこの期間内に出
れる十一二両日はその同人會
評議員會第一回の會合聖市に催
されるが該會議のうち最も重要
視されてるのは日本病院建設の
移民國では専ら之を利用し表
面農業労働者と稱しながら渡
伯後は農業地帯に行かず都市
に留まる者が多くなつたに鑑
み斯くては内國勞働者保護法
の趣旨にもとるとして遂に禁止
に至つたものでその後海興呼
願手續するを要すると

相場と市場		(十月三十日午前建値)	
種別	日本	四級品	一=10千(現物) 二=500(現物)
相場	人求む	五級品	三=500(現物) 四=1000(現物)五百 五百=五百(現物)
等級	コロ	スペシャル	六=1000(現物) アマリニヨ(依)一千 一千(現物)
級	ノミ	アマリニヨ(依)	七=500(買見當 五百(現物))
賣	エジン	(カツ)(依)	八=500(現物)
價			九=500(現物)
金			十=500(現物)
事務所	電	十一=500(現物)	
(共用)	話	十二=500(現物)	
自宅		十三=500(現物)	
而炎		十四=500(現物)	
gyōsho, R. Alvaro Penteado, 2°, and. sua, 9		十五=500(現物)	

年内ならば
呼寄可能

かの三、四年前内國勞働者たる諸君の爲にも有用と認められ、その爲めに立前から臨時政府が外國勞働者の入國を制限して以來、呼寄以外に簡易な入國方法の本移民に對しては之が適用なき事略明かになつた、但し今更にその誘入を許されてゐる日本に對しては之が適用なき事略明かになつた、但し今更に

伯國ロイド社
北米航路復活
さきに海
上保険支
社は何時まで頑張る譯にもゆ
す月初あたりから復活の筈

新柄の格安品其他種々取揃へました、是非御来店の程を願上ます、尚明さらへ品はすて直で差

五カ所山午所前薬跡
地日一上ザ七石良
里塚に時効藏
葬第於リ無儀病
土二いんく十乘
植てス月燒
疾民死市月燒
間地去サ十養
比共翌ン四中
の同十タ日の

NIPPAK SHIMBUN

Jornal Japonez de maior circulação no Brasil

Anno XIX

São Paulo - Quarta-feira, 1 de Novembro de 1933

Num. 857

NIPPAK SHIMBUN

Diretor-Proprietário:

SACK MIURA

Diretor da pagina brasileira: José Sólo

Redacção, Administração e Oficinas:

Rua da Liberdade, 144-a e 146

Caixa Postal, 375

Telephone 2-3926

Endereço Telegráfico: "Nippak"

SAO PAULO - Brasil

ASSIGNATURAS

Para o Brasil

Por anno 30\$000

Por semestre 16\$000

Número aviso \$500

Para o Exterior

Por anno 60\$000

Annuncios

Temos á disposição dos interessados uma tabela completa de preços para annuncios nesta folha. Telephone 2-3926

Uma nova industria japoneza no Pará

Estão sendo estudadas em Belém do Pará, pelo directores da Companhia Nipponica de Plantas, as possibilidades da fabricação, em larga escala, de artefactos de porcellana, pelo sistema japonês.

Os dirigentes daquela Companhia estiveram no palacio do governo onde fizeram oferta ao interventor federal naquele Estado, major Barata, um artístico vaso confecionado com barro paráense, perfeita imitação da porcellana.

Para iniciar esse grande empreendimento a companhia nipponica cogita de mandar vir um tecnico japonês, e explorar essa nova industria.

E' esta mais uma valiosa iniciativa dos japonezes que virá juntar-se ás outras muitas já aqui existentes e que grande proveito estão dando a terra brasileira.

Visita ao Estado de Minas Geraes

Na visita que ora faz ao Estado de Minas Geraes o Embaixador japonês teve occasião de excursionar até as minas de ouro de Morro Velho e ás instalações da Cia Siderúrgica Belgo-Mineira em Sabará. Na capital mineira s. excia. visitou o Instituto José Pinheiro, recebendo grandes demonstrações de sympathy.

Pelo governo do Estado foi oferecida a s. excia. um lauto almoço e um brilhante baile no Automovel Club.

Um gesto nobre do Embaixador, que arrancou elogios da imprensa mineira, foi a visita que s. excia. fez ao tumulo do sr. Olegario Maciel, onde depositou uma coroa de flores e permaneceu um momento de silencio, retirando-se depois de fazer uma profunda reverencia no que foi seguido pelo chanceller da embaixada que o acompanhava. Nessa occasião o diplomata japonês visitou igualmente o tumulo de Raul Soares e o dos soldados mortos nas revoluções de 1924 e 1930.

Actualmente os illustres visitantes encontram-se em Ouro Preto.

Missão commercial japoneza no Chile

Conforme noticiamos tempos atrás, partiram de Tokio com destino ás repúblicas sul-americanas duas missões commerciais com o objecto de ampliar o intercambio entre os países do sul e a grande nação asiatica.

Uma dessas missões já se encontra em Santiago do Chile, Chile, onde se tem mostrado grandemente interessada pelos mercados de tecidos de algodão.

Noticias e telegrammas do Japão

(Serviço especial do NIPPAK SHIMBUN e dos jornais)

PELA POLITICA

Trabalhando para a unificação de todos os partidos

A agencia Havas comunica que nos meios bem informados, prevê se uma proxima fusão dos partidos políticos japonezes que poderia alterar completamente o sistema dos agrupamentos partidários actuais.

E' isso, aliás, o que indicam, de um lado, o movimento cada vez mais forte que se esboça em prol da colligação dos dois grandes partidos Minseito e Selyukai e, do outro, as reuniões secretas das chefes das duas agremiações, que se esforçam por estabelecer uma combinação dos respectivos grupos políticos.

Se o movimento obtiver exito, somente existirá um grande partido político japonês, visto como os outros pequenos agrupamentos partidários serão absorvidos na nova colligação.

O movimento em prol da união partidária provem do facto de que cada agremiação política está actualmente empenhada em colaborar, na mais larga medida possível, com o governo nacional presidido pelo visconde Saito, afim de ajudar o Japão a triunfar das dificuldades em que se encontra.

Os nazistas e os japonezes na Alemanha

Comunica de Tokio a agencia Havas: «A publicação do comunicado oficial do embaixador do Japão em Berlim Sr. Nagai sobre as suas recentes demarches junto á Wilhemstrasse acalmou a indignação causada nos meios nipo-normais pela atitude dos nazistas em relação aos subitos japonezes residentes na Alemanha.

O Sr. Nagai comunicou efectivamente, que o Ministro dos Negocios Estrangeiros do Reich Sr. Von Neurath o certificara de que as raças de cor visadas pelos decretos discriminatórios não compreendiam os subitos japonês e promettera tomar todas as medidas necessárias para impedir que as crianças japonezas que frequentam escolas alemanas fossem novamente molestadas.

No telegramma que acaba de passar para esta capital o embaixador japonês precisa que ainda recentemente se avistava com o Sr. Von Neurath e lhe déra a conhecer as suas conversações com o sub-secretario de Estado dos Negocios Estrangeiros do Reich.

O Sr. Nagai acrescenta que chamou a atenção do Sr. Von Neurath para certos incidentes lamentáveis de que tinham sido vítimas colegiaias japonezes e também para o facto de que um alto funcionário do Ministério do Interior declarara aos correspondentes dos jornais que os subitos japonezes estavam incluídos entre as pessoas de cõr que da mesma forma que os israelitas alemanes, não podem contrair casamento na Alemanha sem incorrer em certas penas.

O Sr. Nagai termina dizendo que o Sr. Von Neurath lhe declarara que o governo alemão nunca tivera a mínima idéa de aplicar aos subitos japonezes essas medidas discriminatórias, lhe exprimira o seu profundo pesar pelos incidentes em questão e lhe promettera que estes não se reproduziriam.

Para manter a paz no Extremo Oriente

O ministro da Guerra, general Araki, anunciou que vai propor ao gabinete um projecto no sentido de se realizar, na capital, uma Conferência Internacional, em que tomem parte todos os países interessados na questão do Extremo Oriente.

O ministro precisou que essa conferência teria por objectivo reforçar a paz, graças, sobretudo, á solução dos grandes problemas do Extremo Oriente. Nella deveriam estar representados o Japão, a China, o Estado da Mandchuria, a Russia, os Estados Unidos, a Inglaterra, a França e a Hollanda. Seriam, por outro lado, examinados todos os problemas discutidos na Conferência de Washington em 1931.

Conferencia do Desarmamento

A Comissão Geral da Conferencia do Desarmamento, reunida no dia 28 de mez p. p., resolveu, em vista das dificuldades de chegar a um acordo satisfactorio, suspender e adiar os trabalhos até o dia 9 do corrente.

As relações nippo-americanas

Despachos de Washington comunicam que o embaixador do Japão Sr. Katsui Debuchi recebeu do Ministério dos Negocios Estrangeiros de Tokio ordem de voltar ao Japão logo que possível afim de apresentar um relatório completo sobre as relações nippo-americanas.

Nos meios bem informados julga-se provável que o sr. Debuchi não regresse a Washington. O embaixador japonês precisou que deixaria a capital com a sua família e embarcaria em S. Francisco em meados de Novembro. Acrescentou que talvez ficasse no Japão.

Observa-se a propósito que os meios militares nipo-normais eram de opinião que o sr. Debuchi não usara da necessária firmeza durante as negociações de Washington sobre a questão da Mandchuria e que por varias vezes se cogitara da sua chamada a Tokio. O sr. Debuchi achava-se em Washington ha cinco annos.

A questão Russa

A respeito da Estrada de Ferro Leste Chinez, que está provocando serio conflito entre russos e japonezes, o jornal "Kharbin Times" faz longos comentários dizendo que se os Soviets não desistirem da politica que estão desenvolvendo no Extremo Oriente, estalarão desordens para as quaes o Japão será fatalmente arrastado.

"Se Moscou — conclue o jornal — abandonar o Extremo Oriente, o Japão poderá garantir os interesses e os habitantes dessa região, que serão libertados dos sofrimentos a que estão agora submetidos; mas, se os Soviets não mandarem de procedimento, o Japão será obrigado a tomar, de espada na mão, as providencias que julgar necessario e a desferir o golpe decisivo".

Sobre a publicação feita por jornais russos, de que o Japão desejava apoderar-se daquela via-férrea, a chancelaria nipponica já desmentiu categoricamente, como se noticiou, a authenticidade dos documentos atribuidos ao embaixador japonês, qualificando-os pura e simplesmente de falsidades propagadas com malevolio intuito.

O governo tomou certas medidas contra o representante da Agencia Tass em Tokio por haver perturbado a ordem e a paz espalhando rumores falsos não obstante ter perfeito conhecimen-

A Sericicultura no Brasil

O Brasil será no futuro o maior productor das melhores sedas do mundo

Eng. Agronomo MARIO VILHENA

O Brasil pode criar o bicho da seda.

Não ha no mundo inteiro um país que offereça melhores condições naturaes á criação do bicho da seda que o Brasil. Em quanto na Europa e na Asia se consegue, e ás vezes difficilmente, uma unica colheita de casulos por anno, em nossa abençoada terra sete, quatro, cinco e mesmo seis crições podem ser efectuadas annualmente, sem grandes dificuldades, como industria subsidiaria e de comprovada vantagem, e quasi mesmo como passatempo.

Aqui a amoreira, arvore preciosa que fornece o unico alimento do bicho da seda, dá-se admiravelmente em todos os Estados, e em alguns delles conserva-se vestida o anno todo e, quando colhidas as suas folhas, quarenta dias depois já está novamente em condições de ser aproveitada! Por outro lado, a lagarta do bicho da seda encontrou entre nós ambiente favorável á sua vida, não a persegue aqui as molestias que na Europa a dizimam frequentemente, annullando todo o esforço do homem. E, finalmente, sob o ponto de vista economico, a sericicultura é ainda uma industria digna de nossas atenções, pois o Brasil importa annualmente varias dezenas de milhares de contos de réis em sedas, quando elles poderiam ser produzidas pelos nossos agricultores, pelas crianças, pelas brasileiras. Assim, precisamos produzir seda para o nosso consumo e devemos pro-

dizir seda para exportar, pois nenhum paiz poderá competir conosco nesse particular, graças ás nossas excellentes condições naturaes para a vida da amoreira e do bicho da seda, como já foi notado atras.

Está já sobejamente demonstrado que o Brasil pode criar o bicho da seda e em S. Paulo, Minas Geraes, Rio de Janeiro, Rio Grande do Sul, para só citar os principaes, milhares e milhares de pessoas entregam-se afanosas e alegremente a esta actividade, que é sem duvida alguma a mais indicada para melhorar a vida de nossos agricultores, por que facil, agradavel, altamente lucrativa, tanto ou mais lucrativa que qualquer industria. Assim, se o Brasil pode criar o bicho da seda — os brasileiros devem cuidar da sericicultura, principalmente neste momento em que todos os homens de boa vontade se empenham, em meio ás maiores dificuldades, na reconstrução economica financeira de nossa Patria.

A criação do bicho da seda. — E' tão facil a criação do bicho da seda que a todo momento dizemos que ella é uma ocupação de mulheres e crianças, o que é a expressão da Verdade. Mas nem por isso a sericicultura deixa de ser uma ocupação digna de homens validos, visto que, cuidada racionalmente, garante não apenas um óptimo rendimento, mas mesmo a fortuna. (continua)

FALLECIMENTO

Ocorreu a 30 do mez proximo passado na capital japoneza o falecimento do eminente jurista-consultor Seichi Pishi, presidente da Associação Athletica Japoneza. Foi professor de direito nas Universidades de Chuo e Hasei.

Um invento sensacional

Acaba de ser publicado pelos jornais uma notícia referente a um invento japonês que não deixa de ser sensacional e interessante.

«A marinha de guerra japoneza adoptará brevemente um novo genero de torpedo, a cujo bordo se encontrará um voluntario, disposto a morrer, e cuja função será a de dirigir pessoalmente o torpedo ao alvo. As autoridades farão oportunamente um recrutamento especial entre os voluntarios para esse fim.

DA MANDCHURIA

Serão pagas as dívidas antigas

A agencia Rengo comunicou para Tokio que "o governo mandchú resolveu emitir, em "bonus" do Tesouro, a somma de 6 milhões de "yens" destinada a cobrir parte das dívidas contrahidas pelo antigo governo do marechal Tchang-Sueh-Liang.

Os "bonus" serão distribuidos á credores pertencentes a varias nacionalidades.

Essa emissão será a primeira efectuada pelo novo governo, que já pagou, em dinheiro, 2 milhões de "yens", das dívidas anteriormente contrahidas".

Serão empregados na Mandchuria capitais franco-japonezes

Foi anunciado pela imprensa financiera parisiense que o Banco Franco-Asiatico associou-se a empresas japonezas para a exploração das reservas auriferas da Mandchuria. Com esse fim organizou-se uma companhia cujo fundo social eleva-se a 1.200.000 yens.

E' a primeira vez que o capital franco participa dos empreendimentos industriais no novo Estado de Mandchú-Koku.

Folhinhas para 1934

O mais artístico e escolhido sortimento encontra-se na

TYP. "NIPPAK"

Especialidade em chromos japonezes